

天 宝 剣

つくば市

昔々、天^{あま}宝^{ほう}喜^き村（現在のつくば市）にある塚に、夜な夜な紫色の電光を放ち怪しく光る部分がありました。村人たちが恐る恐るそこを掘って調べてみると「一口の剣が出てきました。」

村人たちは「これは天から降ってきたといわれる霊剣に違いない」と丁重に持ち帰り、この剣を「天^{あま}宝^{ほう}剣」と呼び、祠を建てて祀りました。さらにこの剣を占ってみると卦に「是正しく弁財天の宝剣なり、ゆめ^{ゆめ}忽^{ゆめ}せにすべからず」と現れたのです。村人たちは喜び、これまでに以上に熱心に敬うようになりました。



そんなある時、旅の僧が牛久沼のほとりに来て（真言密法の）護摩を焚いていました。そこで霊剣の話を目にし、寺までやってきました。村人たちが天^{あま}宝^{ほう}剣について説明すると、旅僧は背負っていた荷物から剣を持たないご尊像を取り出しました。旅僧は、

「このご尊像は、弁財天なのです。常々、なぜ剣を持っていないのかと思っていました。この地に来て合点がきました。きつと、この天^{あま}宝^{ほう}剣と共にある宿縁だったのでしょう」と言い村人に弁財天を託すと、いつの間にか姿が見えなくなっていました。

その様子を見た村人たちは、僧はよほどの高僧のようだったと深く信じ、弁財天と天^{あま}宝^{ほう}剣を守りました。

歴史の流れとともに、弁財天と天^{あま}宝^{ほう}剣は村のあった地域から東の地域にある寺に移されるなどしましたが、この地域では明治初年ころまで、宝剣さまを厨子に入れて担ぎ、宝剣の形をしたお札を各戸に配り歩き、疫病除けを祈りました。天^{あま}宝^{ほう}喜という地名も、天^{あま}宝^{ほう}剣に由来するといわれています。

（参考文献）常陸の伝説（藤田稔編集）、巖島神社来歴記 ※掲載事項には諸説あります。



お出かけの際には、周囲の状況等に十分ご配慮いただけますようお願いいたします。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>